発行月:平成21年8月

家族新聞

第75号

発行所:地域環境活性化協議会
編集者:代表幹事 高橋賢一
連絡先:市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL0561-51-2878

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

この事業は、愛・地球博開催地域社会貢献活動基金の助成金を受けています。

このキャラクタイは私達がワークショップという歴史背景を考えながら独自で誕生させてしまいました。

ワークショップの誕生は1946年今から63年前にアメリカコネチカット州ニューブリテン市での人種差別を無くすために働くソーシャルワーカーのワークショップ(集団力学)の創始者クルト・レヴィンがリーダーとなってロールプレーや自由討論の場での対話学習を行い現場への活動計画を立案、市民意識の啓発と実践トレーニングを行った。その結果ワークショップは現在では共同作業、工房と英語では意味する。そのトレーニングの中で「トーキングスティック」を言う一本の棒が中心となって会議の方向性をしめす

21年は「行雲流水」

スティッキー「森と自然の神の子」

(左) 白は家族をあらわし「信頼」
緑は時間をあらわし「知識」
赤は心遣いをあらわし「情熱」

(右) EXPO2005年(限定)
名古屋商工会議所が
特別に万博推進の為に
制作されたものです。

(上)「トーキング・スティック」

新しい学習トレーニングとして使用された。その再現として、これから価値観を日常生活に結びつける役割を「トーキングスティック」が可能にすると期待する。

(スティックの材料)
おススメ:百日紅 みそはぎ科の落葉高木 幹はなめらかでつやがある。夏から秋にかけて紅色又は白色の小花を開く。物事は慎重に会議は重厚に決断をさるも木からおちて登れないような決断するな。

陶芸「花びん」加藤宗助作
青銅の花びん

「環境教育は心と人づくり教育である。
すべてにチャレンジする子供達を私達は育てます。

※「さざれ志野」特別に瀬戸の陶芸家朱石氏につくらせた逸品
愛・地球博では海上の森で外国県外からのおもてなしで茶道に使用された。

CO_2を吸収する花として開発されました。

4月3日(日)に尾張旭の市道で花植えしたサンパチェンスがきれいに咲いています。夏に強く暑の中に色とりどりの花を咲している姿は心を和ましている。

(万博時計・スティック・さざれ志野・青銅一輪差し花びん、所持者代表所有物。)